

ナルナル的 菌活書評

【キノコの不思議が学べるコミック】

三枝教授のモデルとなった学者は東京農業大学の学長の江口文陽教授でキノコの専門家です。この漫画にも沢山のキノコグッズが出てきますが、実物の教授もキノコグッズの収集家として有名です。

菌類学というと、なにか難しそうな印象を持つ方もいるかもしれませんが、菌類のとっても面白い生態が今や次々と明らかになってきているのです。

そもそも菌類と言っても色々な種類のものがあります。キノコも菌類ですが、その中でも有名なものが、日本では松茸で、ヨーロッパではトリュフでしょう。高級食材です。最近日本でもトリュフの発見が相次いでいます。これまで、日本にはいないと考えられていたのですが、意外と多種のトリュフが身近な土の中に潜んでいることがわかってきて、愛好家の報告を研究者は待っているのです。近いうちに日本のトリュフの生態が解る日が来る事でしょう。



キノコの種類は、まだよくわかっていなくて、何十万種とも何百万種とも言われています。

実は、食用名になるキノコは大変に少なく、毒を持ったキノコも多いのです。毒があるかどうかの判別は、食べて見なくてはわかりません。毒は、薄めると薬になる事がしばしばあります。幻覚作用をもたらすマジックマッシュ

ルームの様な物もありますが、人間にとっての有用な薬効をもつキノコもあって、そのほとんどは未発見です。



私たちが食用にしているのは、キノコの形をしているキノコなのですが、傘を作らないキノコが殆どであることが土壌の解析から明らかになってきました。

つまり、菌糸のまま蜘蛛の糸の様な形で地面の中で一生を過ごしているのです。また、それらの菌糸は、森の植物を支えるネットワークとして機能していて、水分や栄養分を分けあったり、病気や昆虫などの情報を伝えあっていることも解ってきました。

キノコ同士が会話をしているのではないかと研究している学者もいます。そんな菌類の事について解り易く繰り広げられるギャグ話は、不思議な菌類の世界を覗くには格好のコミックとなるでしょう。

中学生から大人まで、楽しめます。

書名	三枝教授のすばらしき菌類学教室 全3巻
著者	香日ゆら
出版社	KADOKAWA
発行日	2021/6/7
価格	各巻 715 円税込み